

# 京の博物館

## 目次

巻頭言……………	1	京のかるちゃーすぽと「ひと・もの・わが館自慢」…	8
おこしやす		・日本髪資料館 ・高津古文化会館	
・京都芸術センター……………	2	・京都市平安京創生館	
・京都絞り工芸館……………	4	美術館・博物館と私……………	11
トピックス……………	6	ティータイム……………	12

関西から

文化力  
POWER OF CULTURE

## 巻頭言 京都は博物館都市だ!

小林 千洋

(NHK京都放送局長)

東京から転勤してあつという間に京都の生活が2年たちます。毎日様々な方々と出会い多くの知己を得て貴重な経験をさせていただきました。

思えば、祖母が生まれ育ったこの地に今、私が生活しているのも何かの縁だと思っております。学生時代やNHKに入局してからも良く訪れた京都。今でも古い街並みや寺社を頻りに訪れ、ほっとする時間を感じ、何かをやさしく包んでくれるという感覚は何処かに祖母との細かい絆を求めているからなのでしょう。その感覚がまさに博物館や美術館を訪れたときにも感じるので。

美術館は「安らぎの場」であり「発見の場」でもあるのです。日常の空間から少し離れ自分と対象物との世界に浸り、そこから受ける感動で「自分再生の場」にもなるのだと思います。

京都には200箇所ぐらいのそのような博物館や美術館の施設があり、その施設で季節ごとや毎月の企画展が催されているということに驚かざるを得ません。このような街は日本中探してもどこにも無いのではないのでしょうか。まして日本や世界の絵画はもとより、美術工芸品から染色作品まで京都の博物館や美術館で展示しているその幅は広く、1年中博物館に通っても飽きないことでしょう。はっきり言ってもう博物館オタクになってしまいそうです。

NHKでも一昨年度は「ボルゲーゼ美術館展」(京都国立近代美術館)や昨年「長谷川等伯展」(京都国立博物館)や「龍馬伝展」(京都文化博物館)をはじめ様々な催事をさせていただきました。多くの方々に来場していただきました。ボルゲーゼ美

術館からは、初めて日本で公開された「一角獣を抱く貴婦人」は本来の構図が見られなかったものを修復作業で現在の作品になったというミステリアスなドラマがありました。また等伯展では彼の業績のすべてが網羅されたと感じるほどの多彩な才能を目の当たりにしました。また龍馬伝

展では目の前の展示物がついに150年前の日本の現実なのだと思われ、京都での歴史のうねりを身近に体感できました。放送番組でもお伝えしておりますが、放送以外でも実際にこのような感動を多くの方々に共有していただくことも私共NHKの務めでもあると考えております。今年3月には法然上人八百回忌特別展覧会「法然 生涯と美術」を京都国立博物館で開催いたします。きっと多くの皆様を感動の世界にご案内すると確信しております。

さて、京都は「観光の街」「宗教の町」「学生の街」など様々な「顔」を持っていると言われております。でも実は「博物館の街」というもっとすばらしい顔を持っているのです。京都に住むとそれが当たり前のように感じているかもしれませんが、京都ならではの特権なのです。美術館には世界や日本の歴史が自然に学べ、また生活に生かす様々な知恵がたくさん詰まっているのです。



# おこしやす

きょう と げいじゅつ

## 京都芸術センター

館長 富永 茂樹

### 元小学校を芸術の発信拠点に ……



正面にはロゴマーク

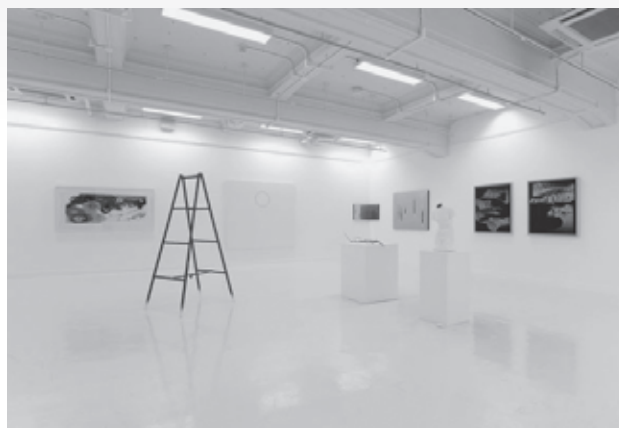
京都芸術センターは、京都における多様なジャンルの芸術の総合的な振興を目指して、平成12（2000）年4月に開館しました。開館10周年を迎えた昨年は、茶会、展覧会、舞台公演、演奏会などさまざまな記念事業を実施いたしました。

芸術センターは、祇園祭の山鉦町に所在し、こどもたちの教育のために地域の方々が永年にわたり力を注いでこられた、素晴らしい伝統と近代建築の美を誇る元明倫小学校の跡地を利用しています。同校は都心部の小学生の減少化に伴う統廃合のため、平成5（1993）年に閉校となり、小学校の役目を終えました。その後、跡地の利用について検討を重ね、芸術文化の総合施設として再生され、芸術の発信拠点であるとともに、地域の方々との連携、交流を維持し、地域の文化祭や祇園祭の工芸品の展覧会なども行っています。

平成21（2009）年に国の有形文化財として登録された建物は、小学校の特質を生かし、たくさんある教室を「制作室」として活用しています。「制作室」では、演劇、ダンス、音楽、美術などさまざまな分野で芸術・創造活動を行う個人、団体が、公演の稽古や舞台美術を作製したり、演奏の練習をしたり、それぞれ熱心に活動を続けています。「制作室」を使用するアーティストたちが実施する「明倫ワークショップ」はどなたでも気軽にご参加いただけますので、少しでも興味のひかれるものがあれば、ぜひ体験してください。どなたでも大歓迎です。

また、館内には教室を展示空間として改築したギャラリー

も2室あり、月ごとに企画展を開催しています。収蔵品はありませんが、絵画、立体、映像、工芸や現代美術など、国内外のさまざまな美術作品、芸術活動を展示、紹介しています。次代を担う若い世代のアーティストたちが、今行っている芸術活動の一端をご覧くださいませ。



『版という距離』展 展示風景（ギャラリー南）2007 撮影：豊永政史

### お茶会、市民寄席などの多彩な催し…

教室以外にも、小学校当時のままの姿をとどめている「講堂」、78畳敷の「大広間」などを会場に、国内外のさまざまな芸術の可能性を志向し、ジャンルを越えた交流を図り、現在のアートの多様な表現を提示する先駆的な事業を展開する一方、伝統的な芸術、芸能、工芸の宝庫である京都ならではのプログラムもたくさんあります。



10周年記念事業 「ザ・サロンミュージック」小松正史（ピアノ）  
撮影：牧田和馬

席主によって、毎回趣向の変わるお茶会では、現代美術作家、デザイナー、染色家、写真家、書家、ジャズミュージシャン、能楽師、演出家、コンテンポラリーダンスのダンサーなど芸術センターを象徴するように、多彩なメンバーが席主を務め、自身の作品、創作活動、仕事ぶりを発揮し、趣向を凝らし、皆さんをもてなします。

一線で活躍する能楽師によるレクチャー、トーク付きの「素謡の会」や上方落語を堪能できる「市民寄席」、伝統芸能を身近に楽しむプログラムを企画し、伝統芸能になじみのない方にも十分お楽しみいただける催しも開催しています。

いろいろな催しを開催している芸術センターに欠かせない存在となったボランティアスタッフは、毎日の展覧会の受付、案内をはじめ、舞台公演の受付、「明倫アート」発送業務など、事業運営に必要な業務に携わってくださいます。この他にも、ボランティアスタッフとアーティストが共に企画するプロジェクトも実施するなど活動の幅はどんどん広がっています。



「素謡の会」会場風景

## 芸術センターの楽しみ方 .....

制作の場、発表の場とともに、情報発信の場としては、皆さんにご利用いただいている、ごく小規模ながら芸術文化関連の資料をそろえた図書室と、各地での各ジャンルの催しのチラシ、各機関のパンフレット、ポスターを設置した情報コーナーがあります。情報コーナーに常備している、芸術センターの情報満載の通信紙「明倫アート」（毎月20日発行）は、アーティストへのインタビュー記事や他所で行われた催しを取り上げた劇評、展評のコーナーも充実しており、毎号読み応え十分です。京都市内を中心に、各施設に配布していますので、一読をおすすめしたいと思います。

図書室や情報コーナーは、何回おいでになっても、何気なくながめるだけでも、ちょっとした発見があるおすすめスポットです。おいしいコーヒーでひとやすみできるカフェもおすすめ。建物を楽しむ、カフェでランチ、展覧会を鑑賞する、ボランティア活動に参加する…芸術センターの楽しみ方、利用のしかたはさまざまです。

大勢のこどもたちが過ごし、大切に受け継いでこられた学

び舎に、ジャンルを問わず、さまざまな芸術活動に専念する国内外のアーティストたち、そして彼等が発表する作品をお楽しみいただき、応援して下さる方々、そしてボランティアスタッフ…いろいろな人々が集うことは、新しい何かが生れる芸術の発信拠点であるために必要なことだと思っています。皆さんにもおいでいただき、京都芸術センターをお楽しみいただければうれしく思います



カフェから情報コーナー、図書室へ

### 2月の展覧会

#### 展覧会ドラフト2011

「TRANS COMPLEX — 情報技術時代の絵画」

〈期間〉

平成23年2月5日(土)―27日(日)

〈会場〉

京都芸術センター内 ギャラリー北・南で開催

〈内容〉

展覧会の企画を募集した「展覧会ドラフト2011」入選者・村山悟郎と彦坂敏昭による展覧会。

情報が錯綜する現代で繰り返し使用される絵画というフレームへの疑問。そもそも絵画作品を生み出すこととは何か。アートと社会を結ぶ「展覧会」という場で、「絵画の現在形」を問います。

### 京都芸術センター 〈入館は無料〉

所在地 〒604-8156

京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2

TEL(075)213-1000

FAX(075)213-1004

交通 市バス「四条烏丸」、阪急電鉄京都線「烏丸」駅、地下鉄烏丸線「四条」駅 下車徒歩5分

開館時間 10:00~22:00

ただし、ギャラリー・図書室・情報コーナー・談話室は20:00まで。

カフェは21:30(ラストオーダーは21:00)まで

休館日 12月28日~1月4日

(設備点検のための臨時休館することがあります)

ホームページ <http://www.kac.or.jp/>



おこしやす

きょう と しほ こう げい かん  
京都絞り工芸館

副館長 吉岡 信昌

後世に残す作品を制作 .....

京都の絞りは、千余年の歴史を誇る日本最古の染色工芸であり、古来より女性の憧れとして着物、小物等に利用されており、絹などの布地を糸で強く括ることで色を染め分けるとともに、その独特な凹凸が、高級な着物の一つの象徴とされています。今日では、「きもの」という枠を超え、その洗練された技術、緻密さ、美しさは洋装、額、屏風などの美術工芸品としても高く評価されています。

京都絞り工芸館は、京鹿の子絞りを制作する職人約40人で構成する「京都絞栄会」の作品を展示、販売するただ一つの専門美術館として2001年6月にオープンし、昨年10周年を迎えました。



京都絞り工芸館 外観

約20年前、絞りの良さを多くの人に知ってもらい、その可能性を広げようと「京都絞りフェア」をパルスプラザ（伏見区）で開催。途中から会場を当館に移し、今年第22回を迎えました。

これまで、畳二十畳分の絞りの振袖や長さ35mの絞りの鳥獣戯画を表現するなど、毎年ユニークな作品を発表して注目を集めてきました。「常設館はないの」という声に応じて同館を開館したのが当館です。そして、日本最古の染色技術の後世に残そうと、今まで着物に使われてきた絞り染めの技法を絵画、屏風、立体等に应用した作品が、2カ月ごとに替わる特別展示で展示されています。

作品例として、浮世絵「東海道五十三次」を絞りで表現した作品や、世界の名画「最後の晩餐」「ひまわり」等、重ね塗りした油絵の技法を絞りで表現する等、技術の高さを感じて頂ける作品を制作しています。

「巨大絞り几帳 京の四季四連作」は、それぞれ幅6~6.5m、高さ2~2.5mの丹後ちりめんの生地に、秋の紅葉、五山の送り火等を表現した大作です。



「東海道五十三次」を絞りで表現

## 技法や歴史の紹介 .....

館内では、絞り染めの歴史を紹介する資料や、複雑な工程を学ぶための道具、制作風景を記録した映像なども公開されています。ふらりと立ち寄っても必ずスタッフが分かりやすく説明しています。



絞り染めの道具

工程のほとんどが手作業であり、江戸時代中頃には、職人の熟練した技であつた華麗な着物が裕福な町人を中心に好まれ、何度も幕府の奢侈禁止令によって厳しく取り締まられました。そして、その代用で絞り染めの匹田鹿の子文様を型紙に彫り、刷毛を使って鹿の子模様を表す技法「摺り匹田」が生まれ、友禅染につながったといわれています。

## 絞り体験 .....

スカーフや袱紗等、絹の小物を1~2時間かけて制作、体験するコースも人気です。(体験料3000円)

数種類の図柄の中から好みの生地を選んで、絞って染めて、解いて、完成させる「袱紗」コース(正絹地40cm×40cm)。また、ご家族へのプレゼントにも最適なシルクジョーゼットのスカーフ(157cm×43cm)を短時間で制作する「スカーフ」コースもあります。丁寧な指導で初めての方でも素敵な作品が完成します。出来上がった作品はその日のうちにお持ち帰りいただけますので、自分だけの京土産ができあがります。また、夏休みの自由課題にぴったりな主に小学生を対象とした体験コース、絞り寺子屋を開催しています。寺子屋修了証の授与や、家族割引、投扇興ゲームも楽しめます。



絞り体験の様子

### 京都絞り工芸館

所在地 〒604-8261

京都市中京区油小路通り御池南入

TEL(075)221-4252 FAX(075)221-4253

交通

市バス「堀川御池」下車、

地下鉄東西線「二条城前」駅下車 徒歩3分

開館時間

9:00~17:00

休館日

不定休

料金

500円 ※体験コーナーは別途料金(絹の絞り・染めから完成まで3,000円。団体15名以上は2,000円のコース利用可)

ホームページ

<http://shibori.jp/index.html>

### 京町家ざらりいほりかわ

京都絞り工芸館の運営する施設に、「京町家ざらりいほりかわ」があります。堀川御池下る東側の大変交通の便のいい立地で、京都絞り工芸館より徒歩3分です。

古い京町家を改装、漆喰の白壁に黒い柱の壁面が続く、京町屋の風情を残した貸しギャラリーです。絞り染めという伝統工芸品の魅力だけでなく、京都の街並み、文化も継承、発信出来ればとオープンしました。

特にシニア層の皆様の生涯学習の発表の場にお使い頂ければと願っており、陶芸、手芸、染織、書、生け花、写真、絵画、お着物等の展示にお使い頂けます。最近、

2階部分の改修工事が完了しました。1階同様、漆喰の壁を塗り、こちらは畳み敷きのお部屋としました。出品者の皆様のくつろぎの場として、また、1階だけでは作品を飾りきれない作家さんは、展示の場として、また、遠方からお越しの作家さんはご宿泊にもご利用頂けます。

1300年という絞りの歴史からすれば、私たちが携われますのは、ほんの短い期間ですが、大切に預かって次の世代に繋いでいければと願っています。



ざらりいほりかわ展示風景



## 第16回 京都ミュージアムロード

京都ミュージアムロードは、市民や観光客の皆様へ、京都の博物館・美術館等を身近に感じていただくことを目的に、毎年開催しています。

16回目となる今回は、開催に向けて9月から霊山歴史館学芸課長で当会相談役の木村幸比古氏を座長とする企画委員会で検討を重ねてきました。

第16回京都ミュージアムロードは、平成23年1月29日(土)～3月21日(月・祝)に開催し(会場により期間が異なります)、過去最高となる72館にご参加いただきます。

「おこしやす!京のほんまもん巡り」をテーマに、各会場館において、それぞれの専門性を活かし、いろいろな分野の「京のほんまもん」を体感していただく展示企画や体験企画を実施します。

また例年、参加者から大変ご好評をいただいている、楽しみながら会場をつなぐ「スタンプラリー」も実施します。これは、各会場に設置されているスタンプを集めて応募していただくと、「京都市内博物館ガイドブック」をはじめ、各会場館からご提供いただいた様々なミュージアムグッズが抽選で当たるプレゼント企画です。(※)

当事業が新たな「京の冬の風物詩」となるように、より一層の充実をはかっていきたいと思っております。



京都市内博物館ガイドブック「京のかるちゃーすばっと」。市内博物館施設の情報が満載。(英文対訳も掲載)。

### 昨年度風景

#### いけばな体験



主催：いけばな資料館 会場：京都国際マンガミュージアム

#### 大文字山・石見て歩き



主催：益富地学会館 場所：大文字山

※スタンプラリーの台紙は、各会場の他、区役所、図書館等に設置します。京都市教育委員会のホームページから印刷していただくこともできます。

## 新規加盟会員の紹介

さる11月に開催した第3回幹事会において、新たに5施設の加盟が承認されました。これにより、京博連加盟会員(正会員)は、197となりました。以下が新規加盟館です。



- 1 **京都賞ライブラリー** 左京区吉田下阿達町 京都大学「稲盛財団記念館」1階
- 2 **京都大学研究資源アーカイブ映像ステーション** 左京区吉田下阿達町 京都大学「稲盛財団記念館」1階
- 3 **象彦漆ギャラリー** 左京区岡崎最勝寺町10番地
- 4 **西川油店** 下京区油小路七条下る油小路町249
- 5 **Wacoal Museum of Beauty** 南区吉祥院中島町29 株式会社ワコール本社ビル1階



## 博物館連続公開講座

毎年、多くの市民の方にご参加いただいている「博物館連続公開講座」(全5回)。思文閣美術館での第1回、大西清右衛門美術館での第2回、駒井家住宅(駒井卓・静江記念館)での第3回講座を終えて、残すところ2回となりました。いずれも定員を大きく超える応募をいただき、参加された方からは大変好評をいただいています。

残る、第4回は2月4日(金)に茶道資料館で、第5回は3月30日(水)に花園大学歴史博物館で開催します。

\*第5回講座へのお申込みは、往復はがきの往信面に同講座希望と書き、氏名・住所・年齢・電話番号・同伴者(1名まで)の氏名と住所、返信面には御自分の住所・氏名を明記し、3月8日(火)(当日消印有効)までに京博連絡局へ。(住所は本誌裏面)。

### 第1回 10月30日(土) 思文閣美術館

慶應義塾大学文学部教授の石川透氏より「奈良絵本・絵巻とはなにか」と題したご講義をいただいた後、展覧会「奈良絵本・絵巻の宇宙展」を見学させていただきました。

### 第2回 11月16日(火) 大西清右衛門美術館

館長の大西清右衛門氏に「朽ちゆくものの美-茶の湯釜の制作と鑑賞-」と題したご講義をいただいた後、企画展示「茶の湯釜にみる朽ちの美」を見学させていただきました。

### 第3回 12月2日(木) 駒井家住宅(駒井卓・静江記念館)

京都大学名誉教授(関西福祉大学教授)の三村浩史氏に「ファミリーと住まいの物語ミュージアム-駒井卓・静江夫妻と建築家ヴォーリズ」と題したご講義をいただいた後、同館のボランティア二人による解説を受けながら、施設見学をさせていただきました。



大変わかりやすい石川氏の解説に引き込まれる参加者(第1回)



講義後も多くの参加者が大西氏に熱心に質問されていました。(第2回)



工夫をこらした家の造りに、参加者から感動の声があがりました。(第3回)

## 平成22年度「博物館ふれあいボランティア養成講座」

京都市内の博物館施設で活動する「博物館ふれあいボランティア」の養成講座を、京都市教育委員会との共催で、今年度も実施しています。(全5回)

第1講では、滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員であり、同博物館の環境学習センター長でもある布谷知夫先生に講師としてお越しいただきました。「博物館とは」と題し、博物館の定義や、博物館とは何をしているところなのか、などを具体的に大変わかりやすく御講義いただきました。ボランティアを導入中の館から、5館の担当者にお越しいただき、実際の活動内容などを紹介いただいた際には、受講者は熱心にメモをとられていました。また、昨年に引き続き、川瀬恵子先生(レクリエーションコーディネーター)指導のもと行われたアイスブレイキングでは、初対面の受講生同士も少し緊張がほぐれた様子でした。

第2講では、「ボランティアとは」と題し、龍谷大学社会学部地域福祉学科の筒井のり子先生から、日本のボランティア活動の成り立ち、ボランティアだからこその弱みや、活動への責任感についても、御講義いただきました。

また、第3講は、京博連加盟施設である月桂冠大倉記念館の全面的な御協力のもと、同館で講座を実施しました。京都ホスピタリティ研究所代表の友澤弘先生から「おもてなしについて」と題し、長年のホテル勤務で大切にされてきたこと、ホスピタリティの精神についてなどお話いただいた後、虹の会ボランティアの案内により、館内を見学。活動を実際に目にされて、受講生の皆さんも具体的なイメージがわいてきた様子でした。

講座はこの後、1月24日(第4回)、2月17日(第5回)と続き、講座を修了された受講生は、4月から、市内の施設で活動を開始されることになります。



第3講での講義風景



先輩ボランティアの案内で施設見学

にほんがみしりょうかん  
日本髪資料館

館長 石原 哲男

わが館を紹介

今も昔も女性は永遠に、自分をアピールする為に髪型、化粧、衣装に努力するのです。

テレビの時代劇に登場する見慣れた髪型以外に、古くは古墳時代から日本の女性の髪型は時代を追って変化して行っているのです。古い時代は唐、韓国の影響を受け、徳川の時代に入って、鎖国、戦のない時代に入り、衣食住が安定発展して行ったのと、同じ様に髪型も江戸時代を中心に発展しました。

日本女性の髪型は、女性の年齢や職業、地域や時代によって、さまざまな変遷が見られます。特に明治以降、洋髪へと変化した髪型は、これからもますます多様化していくことと思いますが、その中で地髪によって鬘や髪を巧みに結い上げる日本髪は貴重な日本文化といえます。

舞妓、太夫の優雅な髪型に魅せられて、結髪師石原哲男が日本伝統の文化といえる結髪の技術を日本古代から現代に至る日本髪と髪飾りの優雅な世界を展開しています。浮世絵でしか見たことが無いような髪型、日本の仕事師が丹精込めて作った髪飾りを多数展示しています。日本で本格的に展示している只一つの日本髪の資料館です。



古代から現在の舞妓・太夫まで115点の髪型を展示



展示品の一部分

わが館ひと自慢

日本髪資料館では本格的な日本髪を体験をして頂く為の体験コーナー「紅先筈」を併設しています。変身では無く、本当の舞妓さんや太夫と同じ体験をして頂く為、地毛で本格的に結髪して、化粧、衣装を付けて体験して頂きます。

舞妓さんは近くの白川沿いの石畳を歩いて辰巳稲荷さん、新橋に撮影散策して頂きます。予約制です。



白川沿いを撮影散策

●所在地

〒605-0079  
東山区大和大路通四条上る常盤町164  
白川ビル2F

●TEL

(075)551-9071 (FAX同じ)

●交通

市バス「京阪四条」下車 徒歩2分  
阪急電鉄京都線「河原町」駅下車 徒歩5分  
京阪電鉄本線「祇園四条」駅下車 徒歩2分

●開館時間

10:00~17:00

●休館日

水曜日、年末年始、お盆休み

●料金

大人600円、大学生500円、  
中高生400円、小学生300円  
※20名以上は団体割引あり

●ホームページ

<http://www6.ocn.ne.jp/~yamato93/>



地毛で結髪体験



こうづ こぶん か かい かん  
高津古文化会館

学芸部長 雨宮 六途子

わが館を紹介

北野天満宮界限は天神さんの門前町と、織物の街西陣によって構成されている伝統ある地域である。今出川を隔てて南に広がる北野商店街、大將軍商店街の辺りは、かつて秀吉が北野大茶の湯をもくろみ、広大な松林には何百と知れない二畳敷の茶屋が立ち並んだという。

幾筋もの“ろおじ”が複雑に交錯する西陣の中、御前一条西を下がったあたりに「法華堂撮影所」が出来たのが明治末から大正初期、そのすぐそばで高津義家は古道具店を営み、ここから映画の小道具貸しが始まる。当時の映画製作は月に36本という凄まじさであった。早朝から各撮影所の注文を全て見立て準備して届ける、夕方からは台本を読んで次を段取りする、物品の値入の仕事は夜中まで、週末はものの買い付けに出かけ日曜日には話を着けて、月曜日には再び準備に戻るといふなんとも目まぐるしいサイクルであった。その蓄積が今日の高津古文化会館の収蔵品の根幹となったのである。

わが館ひと自慢

初代館長高津義家は映画の父と呼ばれた牧野省三氏と出会い、映画の小道具を本物で扱う仕事の草分け的存在であった。時代劇全盛の映画時代を小道具の分野からダイナミックに支えたのがこの人である。

高津商会には、時代劇に重要な甲冑や刀剣など膨大な数量の道具類が収集され、それらは大変質の高いものであった。それ故、文化財作品と映画の小道具用とに峻別され、今日の美術館が設立されたのである。高津義家の目利きの確かさは突出しており、今日質の高い武器武具のコレクションとなって甲冑刀剣の美術館といえは高津と呼ばれる所以である。

わが館もの自慢

明治この方、西洋の文物を取り入れることに汲々とした近代日本では、甲冑や刀剣などの武器、武具はすっかり忘れ去られる存在となった。僅かに一部のコレクターや内外の好事家によって愛好されているといった状況である。しかし日本甲冑の質の高い美しい仕事ぶりは、世界に稀なる存在といっても過言ではない。実用一点張りで充分な甲冑にこれほどの美意識を反映させ、入念で独創性に満ちたデザインは“もの作り日本”のお手本であろう。

写真1にみられる当世具足は、16世紀末の時代性を反映し、ヨーロッパからもたらされた金唐革やビロードを多用し異国の薫りを放っている。写真2は室町時代末から登場した自由闊達、独創性に富んだ変り兜の一つである。かぶいた武将達の茶目っ気が溢れ出る作品である。当時の職人の素晴らしい仕事ぶりが披瀝されている。



写真1：金唐革襷懸南蛮具足



写真2：鯰形変り兜

●所在地

〒602-8375

京都市上京区今出川天神筋下ル大上之町61

●TEL (075)461-8700

●FAX (075)561-8771

●交通

市バス「北野天満宮」下車 徒歩5分

〔京都駅から50系統・三条京阪から10系統〕

●開館時間

10:00~17:00

(展覧会期間中のみ開館。それ以外は要問合せ)

●休館日 展覧会期間中、金曜日休館

12月28日~1月5日

●料金 一般800円、高・大学生500円、

小・中学生無料

●ホームページ

<http://www1.odn.ne.jp/kozu-kobunka/>

こ てん ひ き ねん きょう と し へい あん きょう そう せい かん  
**古典の日記念 京都市平安京創生館**

事業課主任 田丸 順子

**わが館を紹介**

創生館は、丸太町通と七本松通の交差点を西へ少し行った北側の、京都アスニーにある平安京をテーマにした常設展示です。今は京都の中心部から少しはずれた場所になりますが、約1200年の時を遡ると、この辺りは平安京の官庁街で、その時代には最もにぎやかな一帯でした。近くには国の重要な儀式を行った大極殿<sup>だいごくでん</sup>や、国の饗宴を行った豊楽殿<sup>ぶらくでん</sup>があり、当館の場所はお酒を司った造酒司という役所がありました。

ところで、歴史的事実のあった場所に身を置いて調査を行う作業をフィールドワークといいます。大学の授業でもこの作業が重視され、指導教授の引率のもと、当館で平安京が復元された姿を見学した後、実際に平安京を歩く授業が盛んに行われています。また一般の方にも、歴史を学びながら足を鍛えることができる、フィールドワークへの関心が高まっているようで、気候のいい季節はウォーキング姿の来館者も目立ちます。

創生館の周辺は史跡の宝庫です。平安京の基本を学んで、町に飛び出して、時間と空間を感じてみてください。



京都アスニー1階の京都市平安京創生館入り口

**わが館ひと自慢**

創生館では専属の案内ボランティアの方々に展示品の解説をご担当いただいています。皆さんそれぞれに、京都検定1級合格者、英語で解説OK、現役の観光ガイド等々の特技をお持ちの多彩な面々です。そんな方々との歴史談義を目当てに通ってくださる常連の方もいるほどです。

一人でふらりと観光に来られた方から数十人もの団体の方まで、展示品の解説から都ならではの文化や風習など、豊富な話題で引き受けていただける頼もしい助っ人、総勢61名が当館の自慢です。



鳥羽離宮跡で自主的にフィールドワークを行うボランティアの方々

**わが館もの自慢**

平安京に関する復元模型類や発掘調査で発見された平安時代の遺物等を展示していますが、一番の見どころは京都盆地とそこに造られた都を具体的に再現した「平安京復元模型」です。世界でたった一つしかない平安京の景観は、ドキュメンタリーやクイズ番組などテレビで取り上げられることも多く、また、歴史教科書にも掲載されています。

「源氏物語」の主人公である光源氏の邸宅「六条院」を再現した「寝殿模型」も人気ものです。邸の中で、光源氏や紫の上の人形が「源氏物語」に描かれた場面をリアルに演じています。一目でわかる王朝の暮らしは、源氏に魅せられた大人だけでなく、物語を知らない子供たちにも大人気です。



平安京復元模型



寝殿模型と『源氏物語』より女楽の場面再現

●所在地

〒604-8401京都市中京区丸太町七本松西入  
 京都市生涯学習総合センター(京都アスニー)1階

●TEL (075)812-7222

●FAX (075)803-3017

●交通 市バス「丸太町七本松」下車徒歩1分

●開館時間 10:00~17:00

●休館日 火曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始

●入館料 無料

●ホームページ

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/asny1/top.html>

※案内ボランティアによる解説を10:00~16:50の間おこなっています。団体に対する解説は2週間前までにご予約ください。



## 鉄道今昔

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」  
吉田 真弓

「虹の会」の研修会で梅小路公園と隣接する「梅小路蒸気機関車館」を訪れました。現存する日本最古の和風木造駅舎であった「旧二条駅舎」が移築され、内部では貴重な鉄道の歴史資料を拝見することが出来ました。続く扇形車庫には、運転席にも座れる蒸気機関車等が、かつて活躍していた頃の勇姿そのままにずらりと並んでいました。

「ポーッ！」大きな汽笛を鳴り響かせたのは、構内を実際に走っている、走行距離僅か一キロのSLスチーム号。迷わず乗車券を購入したのは言うまでもありません。先客のキラキラと瞳を輝かせ、ワクワクしながら発車を待つ幼子に、祖母と旅した山陰本線での懐かしい思い出が重なりました。

煙を出しながら走るSLの横を、スマートな新幹線がアッと言う間に走り過ぎて行きます。旅気分の中で、改めて鉄道の歴史を深く心に感じた秋のひとつときでした。



SLスチーム号

## 卒業後、また入学できる館

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」  
堀 久子

「京都市学校歴史博物館」でボランティアさせていただいております。

全国に先駆けて、明治2年に小学校が市民によってできたと、我々京都市民が誇れる学校の歴史資料、また寄贈された美術品の数々を展示している館です。

ここでのボランティアは、館の皆様および来館者にも恵まれ楽しいです。また、自分の世界が広がります。たとえば、他所で「古義堂」という文字を見ても、以前でしたら見過ごしてしまいましたが、今は「え！何が書かれているのか？」をもっと知りたいと興味がわき、知識が増え、勉強させていただける、というように充実したボランティア活動です。

欲を申せば、もっともっと「京都市学校歴史博物館」に足を運んでくださる人があれば嬉しいのですが――。



元京都市立開智小学校の正門と石堀

## 博物館ふれあいボランティア「虹の会」とは？

「虹の会」は、京博連と京都市教育委員会が開催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を修了した市民の皆さんで作るボランティア団体です。

会員は、自らの生涯学習のため、また施設と来場者の架け橋となるため、京博連加盟の博物館・美術館等の施設で積極的にボランティア活動を行っています。活動の内容は、具体的にはイベントの受付や、展覧会での監視業務、展示品の簡単な解説など多岐にわたります（施設からの要請に応じて、様々な活動を行っています）。

活動依頼は、月に1回、京博連事務局を通して行います。定期的な活動のほか、1日のみ、また数日から一週間といった短期的な活動にも参加していますので、活用を希望・検討される京博連加盟館におかれては、お気軽にお問合せください。

問合せ先：京博連事務局 TEL (075) 251-0410 FAX (075) 213-4650





## 吉野の山の物語

京都當道会

副会長 大木 富志

昨秋、奈良県吉野町吉野山に連続して行く機会がありました。金峯山と称し吉野山から山上ヶ岳（大峯山）に至る一帯は、飛鳥時代から聖地として知られてきました。

白鳳年間（七世紀後半）、役行者えんのかみはこの地で修行され、人々を悟りの世界に導くため金剛蔵王権現こんこうざおうごんげんを祈り出し、そのお姿を桜の木に彫刻し、大峯山と吉野山にお堂を建ててお祈りされました。これが蔵王堂のおこりであり、多くの修行者、宗教者が宗派を越えて入山修行しました。桜はご神木として保護、献木され、吉野山は日本を代表する桜の名所になりました。

日本の心の原点、自然を敬い、神様も仏様も大切にすることを正しく受け継ぎ、権現様を間近で心静かに拝み、ご縁を結んで下さいと説いてありました。

平城遷都千三百年記念として百日間、特別ご開帳があり、その時期にこのお山の吉水神社よしみずで撮影のお仕事に入り、過去に何度か訪れた時とは別に、改めて感慨深い思いをしました。



金剛蔵王堂

吉野修験宗の僧坊として千三百年前に創立した吉水院（当時）は文治元年（1185年）源義経、静御前の吉野潜入時、しばらく亡命を受け入れました。「義経潜居の間」「弁慶思案の間」他数々の遺物も残されています。その窓の真下に見る急斜面、杉木立、そこから思い浮かべる雪深い頃の二人の別れを追想すると、その心情が身にしみようになります。

### 一 吉野山 峰の白雪踏み分けて

入りにし人の跡ぞ恋しき 一

延元元年（1336年）後醍醐天皇は吉野に御潜幸になり、吉水院宗信の援護のもとに吉水院を南朝の行宮と定められました。それより、悲壮な吉野朝四代57年、南北朝の対立が始まりました。

後醍醐天皇の玉座、その真下を流れ続ける瀬古川のせせらぎの音は当時のまま。縁側に出ると向い側の山上に金峯山寺の蔵王堂が見えます。現在の入母屋造、桧皮葺きは安土桃山の建立、何故か京都御所紫宸殿のお屋根の風情、もし後醍醐天皇が毎日この景色をながめられていられたとするならば…そんなはずはないのだけれど、想像してみると胸が痛みます。

### 一 花にねて よしや吉野の吉水の 枕の下に石走る音 一

御製

文禄三年（1594年）豊太閤が吉水院を本陣として盛大な花見を催したと聞きます。京都において秀吉が「北野の茶会」「醍醐の花見」を催した事は有名ですが、この地でも太閤らしく権勢を示し、謳歌し豪快さを示した出来事が「義経」「後醍醐天皇」の物語と余りにも対照的で、何とも感慨無量でした。

### 一 年月を 心にかけてし吉野山 花の盛りを今日みるかな 一

室町初期の床棚書院様式を伝えるきわめて古風な遺構での撮影は、かくして多くの思いをいただき無事終了しました。今年、京都當道会は、後醍醐天皇のご命日に世界遺産のこの地で奉納演奏を行います。



吉水院 義経潜居の間

発行 平成23年1月

編集・発行者 京都市内博物館施設連絡協議会事務局（京都市教育委員会 生涯学習部内）

所在地 〒604-8064 京都市中京区富小路通六角下 元生祥小学校内 TEL：(075)251-0410 FAX：(075)213-4650

ホームページ [http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-17-1-0-0\\_13.html](http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-17-1-0-0_13.html)